

「こわい本」

図書・CDの展示を開催しています。

夏になると、落語や歌舞伎で怪談がよく上演されるなど、「怖い話」をすることが夏の風物詩となっています。これにあわせて、図書館では「怖い話」に関連する資料を展示、貸出します。

なぜ夏に「怖い話」なのかというと、心をひやりとさせて暑さを忘れるためだとか、死者が身近に感じられる季節であるため怖い話をするのが自然だからだとか、いろいろな説があります。お盆がある夏は、あの世とこの世が近づく特別な季節であり、夜に窓を開けて涼をとることで、人間がいる部屋と妖怪や幽霊がいる外の暗闇がつながりやすいのだそうです。※1

夏の空気を感じながら、怖い話を本やCDで楽しみませんか。

○ 期間 令和元年7月2日（火）～8月25日（日）

開館時間中は、いつでもご利用いただけます。

○ 場所 県立図書館 閲覧室 新着図書コーナー

○ 展示資料 約50冊

（1）日本のこわい本

日本の幽霊や妖怪、怪談話などに関する資料を展示する。

- ・ 幽霊や妖怪に関する資料
- ・ 怪談や怖い言い伝え、迷信に関する資料（怪談噺のCDを含む）
- ・ 怖い実話、歴史史話に関する資料

（2）世界のこわい本

日本以外の国の幽霊や怪物、怖い話に関する資料を展示する。

- ・ 幽霊や怪物に関する資料
- ・ 創作や実話の怖い話に関する資料

香川県立図書館 (<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp>)

〒761-0393 高松市林町 2217-19 TEL:087-868-0567

—身近な課題の解決に図書館の資料をご活用ください—

※1 参考文献：『折口信夫全集 22』 折口信夫／〔著〕 中央公論社／刊 1996

『怪談論』 稲田和浩／著 彩流社／刊 2015